

基本戦略名	1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる	事業群主管所属・課(室)長名	教育庁 義務教育課	岡野 利男
施策名	2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成	事業群関係課(室)	高校教育課、生涯学習課	
事業群名	① ふるさと教育の推進	令和5年度事業費(千円)	※下記「2. 令和5年度取組実績」の事業費(R5実績)の合計額	20,381
	④ 子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動の推進			973

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文) ①我が国と郷土に誇りを持ち、明るく活力のある地域社会の実現を目指し、我が国と郷土の歴史や伝統文化等についての理解を深め、地域の実態に目を向けた学習活動を通して、社会に参画する力や地域の課題解決に主体的に関わる資質・能力を具えた、地域を支える人材を育みます。 ④ボランティア活動や自然体験活動、集団宿泊活動など、通常の学校生活では得られない様々な体験によって、子どもたちの見聞を広め、自然や文化に親しむことを通して、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、よりよい人間関係を形成する力や公共の精神の育成を目指します。	(取組項目) i) 我が国や郷土の伝統・文化、自然環境に関する学習の充実(事業群①) ii) 教科や総合的な学習・探究の時間等において主体的に郷土で学ぶ教育の推進(事業群①) iii) 地域ぐるみで展開するふるさと教育の推進(事業群①) iv) 県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、主体的・持続的な実施体制を確立(事業群①) v) 自治体、大学、産業界等とのコンソーシアム※1を構築し、地域課題の解決等の探究学習※2を県立高校で実施(事業群①) vi) 「しま」の将来について考えるプログラム等を通じたふるさとの未来を創ろうとする意欲の醸成(事業群①) vii) 世界遺産を活かしたふるさと教育の促進(事業群①) viii) 学校と連携した体験活動プログラムの作成による活動内容の充実と機会の提供(事業群④) ix) 県立青少年施設でいじめや防災等社会的課題に対応した体験活動の機会の提供(事業群④) ※1 コンソーシアム: 複数の個人や組織が共通の目的のために活動する集団 ※2 探究学習: 問題解決的な活動(課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現)が発展的に繰り返されていく一連の学習活動
---	--

事業群	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 事業群① 地域の活性化や課題解決を目指した、ふるさと教育における探究的な学習が、目標値を上回るペースで増加している。探究的な学習の意義や具体的な実践、指定校におけるふるさと教育の取組や成果等の周知・発信の結果と考える。 事業群④ 令和5年度は、小学校は100%、中学校は100%と、令和4年度を上回り、最終目標を達成する結果となった。(R4:小100% 中86.3%)各学校においては、今後も継続して、各種研修会を通じて、自然体験活動の充実について理解を深めていく。
	①地域の発展や地域的課題の解決に向けて児童生徒が探究的な学習を行っている学校数(小・中学校)	目標値①		40校	80校	120校	160校	200校	200校(R7)	
		実績値②	8校(R2)	97校	108校	231校			進捗状況	
		達成率②／①		242%	135%	192%			達成	
	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	④自然体験活動に取り組んでいる小・中学校の割合	目標値①		100%	100%	100%	100%	100%	100%(R7)	
		実績値②	86.5%(R元)	91.1%	95.2%	100%			進捗状況	
達成率②／①			91%	95%	100%			達成		

2. 令和5年度取組実績(令和6年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和5年度事業内容及び実施状況 (令和6年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和5年度事業の成果等	
				R4実績	うち 一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R4目標	R4実績	達成率		
				R5実績					R5目標	R5実績			
				R6計画					R6目標				
				事業実施の根拠法令等									
				事業期間	法令による 事業実施の 義務付け	県の裁量 の余地が ない事業			他の評価 対象事業 (公共、研究等)				
所管課(室)名	事業対象												
取組項目 i iv v	○	1	長崎発 未来の創り手 育成プラン	4,398	1,029	10,714	●事業内容 「長崎を元気にするアイデアコンテスト」:地域課題解決につな がる長崎を元気にするアイデアを募り、全県立高校生によるネッ ト投票形式のコンテストを実施。 「高校生アントレプレナーシップゼミ」、「未来創造コーディネ ーター育成事業」:県内の希望する高校生・教員を募り、外部講師 等を活用し地域課題の解決や魅力化等に取り組み、起業家精 神を育成する。 ●実施状況 「長崎を元気にするアイデアコンテスト」では19校が活動、研 究発表を実施した。また、「高校生アントレプレナーシップゼミ」で は20名が6グループで活動を行い、起業家や行政関係者の支 援を受けながらビジネスアイデアを構築し、発表会を実施した。	【活動指標】	20	21	105%	●事業の成果 ・地元の行政機関や事業所などと連携し、地域 活性化に向けた取り組みを行ったことで、多くの 生徒達が、将来ふるさとの発展に貢献したいと いう意識が高まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・各機関との連携の実績ができたことで、今後の 連携がスムーズに行われ、また、参加校の教諭 の指導スキルの向上も見込まれる。このことで、 今後の他の取組への広がりや深まりが期待で き、社会に参画する力や課題解決に主体的に関 わる資質・能力の育成につながっている。	
				1,710	683	9,957			20	19	95%		
			(R5終了)H30-R5	—				【成果指標】	90	94	104%		
				高校教育課	—	—		—	アイデアコンテスト 参加校において、地 域課題を解決し、将 来、ふるさとの発展に 貢献したいという意識 が高まった生徒の割 合(%)	95	94		98%
取組項目 iii		2	NEXT長崎人材育成事 業費				●事業内容 急速な技術の発展等による社会情勢の変化に対応し、柔軟な 発想で課題解決や新しい価値の創造ができる人材を育成する ため、企業見学や外部人材による講座、アプリ開発講座、アント レプレナーシップ教育の充実を図る。	【活動指標】				—	
				12,925	3,320	7,003		各コンテスト(成果発 表)や企業見学会の 参加者数(人)	570				
			(R6新規)R6-8	—				【成果指標】					
			高校教育課	—	—	—		自分のスキル向上に つながったと答える参 加者の割合(%)	90				
取組項目 i vi	○	3	しまのリーダーチャレン ジ事業				●事業内容 離島に住む小学生を対象に、本県を代表する企業や施設、S DGsを推進する企業や大学等の訪問など、多様な学びや体験 の場を創出することで、本県の魅力を発見・実感し、誇りや愛着 を深めるとともに、ふるさとを担っていく意欲やリーダー意識を高 めるきっかけとする。 ●実施状況 企業等での講話や体験活動、参加者同士や大学生との意見 交換等を行った。対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五 島町からの応募者40名が参加した。	【活動指標】				●事業の成果 ・参加児童からは「長崎県のミライを協力してつく りたい」「みんなが楽しい・暮らしやすいと思える 長崎県にしたい」等の感想が、保護者からは島 外での経験が将来に繋がることや、2泊3日の 成長への喜びの感想があった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・事業を通して、長崎県の発展や地域的課題の 解決に向けた児童の意識が向上した。	
				1,262	690	7,659		参加者数(人)	40	40	100%		
				1,519	886	7,781			40				
			離島振興法第1条					【成果指標】					
				R5-7					90	100	112%		
			生涯学習課	○	—	—		対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町及び、令和6 年度から追加となる長崎市、佐世保市、平戸市、松浦市、西海 市の離島部に住む小学5,6年生	将来、島に貢献した いと思う割合(%)	90			

取組項目 v	○	4	高校・地域連携イキイキ 活性化事業				●事業内容 「地域の子どもを地域で育てる」気運を地域と高校が一体とな って醸成し、地元高等学校が担う役割を地域と共有し、社会に 開かれた魅力ある学校にするため、県と離島半島部の市町で 「高校・地域連携コンソーシアム」を設置し、地域振興の核とし ての高校の魅力化を図る。 ●実施状況 令和5年度に島原市と新上五島町でコンソーシアムを設置し 高校の魅力化を推進する事業を協議した。	【活動指標】 地域と連携した教育 活動への生徒の参加 割合(%)				●事業の成果 ・地域のイベント等を学びのアウトプットの場とし たことにより、地域と連携した教育活動への生徒 の参加割合が高まった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・地域の資源を高校の魅力化と地域の活性化に 活用することで、社会に開かれた魅力ある教育 課程の編成と生徒の郷土への愛着を高めること に寄与している。	
				10,662	7,144	10,723			30	35	116%		
				11,166	7,283	8,559			35				
			R5-7			—			70	93	132%		
			高校教育課	—	—	—	高校生、市町		75				
取組項目 ii	○	5	郷土学習資料作成事業	324	324	2,296	●事業内容 長崎県の正しい理解と、豊かな郷土愛を育むため、中学生向 けの郷土教育資料「ふるさと長崎県」を作成し、県内公立中学校 の生徒に公開する。 ●実施状況 トピック「『しま』体験で学ぶ『しま』の魅力！」を追加すると ともに、各種統計データを最新に更新した令和6年度版「ふるさと長 崎県」をPDFデータとして、県公式ウェブサイト公開した。	【活動指標】 作成数(回)	1	1	100%	●事業の成果 ・社会科や総合的な学習の時間等において、調 べ学習の資料や読み物資料としての活用が定 着した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・社会科や総合的な学習の時間等の様々な学 習活動において活用されることで、各学校にお ける地域を舞台とした探究的な学習の充実に寄 与している。	
				275	275	2,298			1	1	100%		
				703	703	1,556			1				
			H16-			—			100	100	100%		
						義務教育課	—	—	—	県内公立小・中学校の児童生徒	資料を活用した学校 の割合<中学校>(%)		100
取組項目 iii	○	6	小中高が一体となった ふるさと教育推進事業				●事業内容 「ふるさとの未来を担う人材」を育成するために、ふるさとを舞 台に、地域の魅力を小学校から中学校まで学ぶ系統的なカリ キュラム及び高等学校との連携・協働の在り方を含めた体制づ くりについて研究を進め、県下に発信することでその普及を図 る。 ●実施状況 5市町の小中学校12校を拠点校として指定し、ふるさとを舞台 に地域の魅力を小学校から中学校まで学ぶ系統的なカリキュラ ムと高等学校との連携・協働の在り方を含めた体制づくりにつ いて研究を進めた。	【活動指標】 市町教育委員会への 指導訪問(校)				●事業の成果 ・ふるさと教育において小、中、高の校種を越え た連携協働による実施が図られるようになった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・ふるさと教育が小学校、中学校、高等学校の連 携・協力によって系統的に行われることで、地域 の発展や地域的課題の解決に向けて児童生徒 が探究的な学習を行うことに寄与している。	
				6,472	3,534	12,254			21	29	138%		
				7,518	4,268	12,061			21				
				—					【活動指標】 研究指定地区にお ける成果発表会の回数 (回)	5	5		100%
				—					5				
			R5-6			—			【成果指標】 地域の発展や地域 的課題の解決に向け て探究的な学習を行 っている学校数(校)	120	231		192%
							160						
						【成果指標】 ふるさとの魅力を知 り、ふるさとのため に役立つことを考 えることができた 児童生徒の割合 (%)	75	84	112%				
						80							
			義務教育課			—	—	—	県内公立小・中学校の児童生徒及び教職員				
取組項目 viii	○	7	「しま」体験活動支援事 業費	552	552	1,531	●事業内容 「しま」地区での体験活動等を支援する市町の経費を一部助 成することで、「しま」の魅力を伝える教育旅行や自然体験活動 等を支援する。 ●実施状況 令和5年度は、県内の小・中学校や県立中学校の児童生徒 256人が本事業により体験活動を実施した。また、「しま」の魅 力を広く伝えるため、実施校から聞き取った活動内容をまとめ、各 学校に情報提供を行った。	【活動指標】 各市町教育委員会に 対する説明(回)	3	3	100%	●事業の成果 ・しま体験を通じて、島の魅力、本県の魅力を感じ る生徒が増え、ふるさと長崎を愛する心の育成 につながった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・島をもう一度訪れたいと思った参加者の割合は 95%以上と高く、一定の寄与はできたものと捉え る。	
				973	973	766			3	3	100%		
			(R5終了)H23-R5			—			【成果指標】 島をもう一度訪れたい と思った参加者 (%)	95以上	95.4		100%
							95以上	95.8	100%				
			義務教育課			—	—	—	県内小・中学校の児童生徒				

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	我が国や郷土の伝統・文化、自然環境に関する学習の充実	
	●実績の検証及び解決すべき課題 地域と連携した探究活動や文化の理解、伝統芸能の継承を行う活動を継続的・体系的に行うために、すべての県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、公表している。計画に基づいてふるさと教育を展開しながら、適宜計画の見直しを図り、より実のある取組へと高めていく必要がある。	●課題解決に向けた方向性 実施計画及び体系図については、学校要覧で公開しているが、各学校が計画に基づき実践を重ねる中で、探究学習の成果発表の機会等も活用しながら、学校を超えて取組を共有し、各学校の取組の活性化につなげるよう促す。
ii	教科や総合的な学習・探究の時間等において主体的に郷土で学ぶ教育の推進	
	●実績の検証及び解決すべき課題 郷土資料「ふるさと長崎県」は、教科指導やふるさと教育等、各学校の多様な学習活動における主体的な学びに活用されている。今後は、公開しているデータを編集したり、抜粋したりしやすいものにするなど、児童生徒などの利用者が学習活動を行う際に使い勝手の良いものにすることで、利用者離れが起きないようにすることが必要である。	●課題解決に向けた方向性 利用者がテキストデータを使えるようにするために、フォーマットをPDFからWordドキュメント形式に変更する。併せて、公開データの編集者にとっても情報更新を行いやすい形式にすることで情報更新の効率化を図る。
iii	地域ぐるみで展開するふるさと教育の推進	
	●実績の検証及び解決すべき課題 研究指定市町においては、学校と教育委員会や市町まちづくり担当部局、地元企業、商工会等、地域の関係機関等が連携・協働し、ふるさとの活性化や課題解決を目指した取組を行い、地域ぐるみのふるさと教育を推進することができた。研究指定市町の取組をモデルとして県下全市町に取組を広げる必要がある。	●課題解決に向けた方向性 研究委託をしている各市町の実践の中から小、中学校と高等学校、その他各機関との連携にあたって必要な配慮事項や調整事項などを取り上げて紹介する事例集を作成、配付し、研究成果を基にした地域ぐるみのふるさと教育の充実を図る。
iv	県立高校でふるさと教育の実施計画と体系図を作成し、主体的・持続的な実施体制を確立	
	●実績の検証及び解決すべき課題 「長崎発 未来の創り手育成プラン」により、高校生の地域課題に対する関心や探究スキルは向上している。また、令和3年度までにすべての県立高校でふるさと教育の体系図と実施計画を策定した。一方で小中学校におけるふるさと教育から一歩進んだ課題発見・解決能力の育成、生徒自らが創り上げる探究学習への転換に課題がある。	●課題解決に向けた方向性 「NEXT長崎人材育成事業」により、地域の課題を発見・解決し、主体的に行動することのできる地域リーダーの育成及び自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力を持ち長崎の未来をデザインする人材を育成する。また、高校生の研修に教員がアドバイザーとしてかわかることで、教員自身のアントレプレナーシップの醸成と、指導力の向上を目指す。
v	自治体、大学、産業界等とのコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究学習を県立高校で実施	
	●実績の検証及び解決すべき課題 県立松浦高校において、文部科学省委託事業「新時代に対応した高等学校改革推進事業」により地域と学校の協働によるコンソーシアムを構築し、地域課題解決型探究活動を行った。また、地域素材を活用したカリキュラム開発を行い、実践授業を地域の方々に公開するとともに、外部専門家から指導助言をいただいた。課題は、本事業の指定が本年度までであり、取組を今後どのように継続していくか、また、地域に根ざした探究学習を推進するために、コンソーシアムを今後どのように継承していくかが課題である。	●課題解決に向けた方向性 文部科学省委託事業「新時代に対応した高等学校改革推進事業」において開発した、地域素材を活用したカリキュラムを学校設定科目として通年で取り組む。また、構築したコンソーシアムについては、令和7年度から学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）を導入することで、学校と地域住民等が連携した学校運営に取り組み、これまでの活動をさらに推進していくこととしている。
vi	「しま」の将来について考えるプログラム等を通じたふるさとの未来を創ろうとする意欲の醸成	
	●実績の検証及び解決すべき課題 令和5年度は、県北部を活動の場所として講話、体験活動、意見交換を行い、参加者は「しま」や長崎県の魅力を再発見した。「将来、島に貢献したいと思う割合」が100%となるなど、将来の長崎県や離島地域のリーダー育成につながる取組となった。県内各地域にて高い事業効果が得られる研修プログラムの開発が課題である。	●課題解決に向けた方向性 参加児童・保護者へのアンケート結果を基に、県内各地域を活動場所として、様々な児童に対応した新たな研修プログラムを開発する。
vii	世界遺産を活かしたふるさと教育の促進	
	●実績の検証及び解決すべき課題 郷土学習資料「ふるさと長崎県」には、巻頭の折込記事において県内の世界遺産の概要を、離島を紹介する特集記事において島内の世界遺産の位置や概要が紹介されている。PDFデータ化に伴い、一部掲載画像を更新したり、記事内容を補正したりすることで、内容の充実を図った。今後は、掲載内容の充実と記事を活用した学習実践の充実を図っていく。	●課題解決に向けた方向性 ウェブ上でのデータ修正や編集が容易であるという特性を生かし、掲載している記事を整理・統合することで、子どもたちにとって、調べやすく分かりやすい紙面構成とする。また、教科横断的にふるさと教育が展開されるよう、各教科等の種研修会等において本資料の活用を指導していく。

viii 学校と連携した体験活動プログラムの作成による活動内容の充実と機会の提供	
●実績の検証及び解決すべき課題 利用者へのアンケートでは、島をもう一度訪れたいと思った参加者の割合は95%以上と高く、体験活動プログラムの内容充実に一定の成果をあげることができた。 体験活動プログラムの作成にあたっては、学校との連携が重要である。まずは、学校との緊密な連携を図りながら、学校が求める体験活動プログラムについて、情報収集するとともに、参考となる活動プログラムを県から学校へ紹介する。	●課題解決に向けた方向性 活動後に実施するアンケート調査結果を参考に、学校のニーズや課題を把握して、活動プログラムの改善や活動内容の充実を図る。また、行程表をホームページ等で公開し、学校の体験活動を実施する際の参考になるようにする。
ix 県立青少年施設でいじめや防災等社会的課題に対応した体験活動の機会の提供	
●実績の検証及び解決すべき課題 令和5年度はコロナ禍を抜け、昨年度実施できなかったプログラムが少しずつ再開されている状況である。そのような中、防災に関わる体験活動プログラムは5施設で1件の実施があった。今後は児童生徒を対象とした不登校支援や防災等に対応したプログラムの更なる開発が必要である。	●課題解決に向けた方向性 生涯学習課と県立青少年教育施設協議会が連携を図り、プログラムの開発・充実に努める。また、実践の共有やプログラムの開発等の情報交換を行う

4. 令和6年度見直し内容及び令和7年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和6年度事業の実施にあたり見直し内容 ※令和6年度の新たな取組は「R6新規」等と、見直しがない場合は「―」と記載	令和7年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目 iii		2	NEXT長崎人材育成事業費 (R6新規)R6-8 高校教育課	R6新規	②	企業見学会やアプリ開発講座、アントレプレナーシップゼミなどの参加状況等により、次年度の開催方法等を検討する。	改善
取組項目 i vi	○	3	しまのリーダーチャレンジ事業 R5-7 生涯学習課	対象を対馬市・壱岐市・五島市・小値賀町・新上五島町に加え令和6年度より長崎市・佐世保市・平戸市・松浦市・西海市の離島部に拡大。市町の関係課と連携し、本県の魅力を発見・実感し、誇りや愛着が深まるような活動や事業啓発の充実を図る。	③	令和7年度は、県南地域を活動の場として離島地域のリーダー育成を図る事業を実施する。これまでの実績やアンケート結果等を基に研修プログラムの更なる改善に努めるとともに、事業の成果を広報・周知する取組の充実を図る。	改善
取組項目 v	○	4	高校・地域連携イキイキ活性化事業 R5-7 高校教育課	コンソーシアムの考え方や取り組み内容等を検討するために、調整会議等を通して支援する。	⑤	島原市と新上五島町に加えて、壱岐市及び西海市においてコンソーシアムを立ち上げて、地域の資源を活用した高校の魅力化と地域の活性化に一体的、継続的に取り組めるよう、地域、学校、企業等の役割を明確にするとともに、高校教育課が積極的に支援する。	拡充
取組項目 ii	○	5	郷土学習資料作成事業 H16- 義務教育課	「ふるさと長崎県」のPDFデータ化に合わせた、記事構成や内容の整理と見直しを継続して行う。また、本資料データの利活用に係り、利便性の向上に向けてテキストデータ化を図る。	②	子どもたちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めるため、本学習資料の果たす役割は大きい。今後も、引き続き掲載内容の充実を図るとともに、本学習資料の継続的な活用を促し、子どもたちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めていく。	改善
取組項目 iii	○	6	小中高が一体となったふるさと教育推進事業 R5-6 義務教育課	―	②	これまで、学校とまちづくり担当課とのつながり、小中高のつながりなど、ふるさと教育を充実させるうえで必要な連携の在り方を示し、探究的なふるさと教育を実施する学校を増やしてきた。今後も、更に探究的なふるさと教育を行う学校を増やすことでふるさとの未来を担う人材の育成を全県的に行う必要がある。そこで、地域の活性化やまちづくりに大きな役割を担っている企業とのつながりを新たなふるさと教育充実の視点として示し、探究的なふるさと教育を行う学校を増やしたい。	改善

注:「2. 令和5年度取組実績」に記載している事業のうち、令和5年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点